

「高浜4号機信頼失墜」

トラブルに批判相次ぐ

県議会

四年七カ月ぶりに再稼働した関西電力高浜原発4号機（高浜町）の緊急停止から一夜明けた二日、県議会厚生常任委員会では、県議から「信頼失墜だ」「水漏れに続いて二度目のトラブル。何をやっているのか」と、関電に対する厳しい批判が相次いだ。●面参照

「これほど国民が注目し、事業者も国も県も審査に審査を重ねてきたのに」と細川かをり委員（無所属）はあきれ顔。最大会派・自民党県政会会長の山岸猛夫委員も、昨年十二月の定例県議会で再稼働の議論を尽くしたことに触れながら「県民、国民の信頼を大きく損ねた。原子炉停止は重大に受け止めるべきだ」と声を張り上げた。

各委員は、再稼働を目前

にした三月二十日に4号機の一次冷却系の配管で水漏れがあったことも問題視。西本恵一委員（公明党）は「ボルトが緩むだけで、放射性物質を含む水が三十四センチも流れ出てしまう。緩まないようにきちっとすべきではないか」と関電に注文を付けた。

原子炉の自動停止について、野路博之原子力安全対策課長が「発電機が止まり、タービン、原子炉も停止した。警報も鳴り注意を促した。安全を重ねている証左ではないか」と答弁し、細川委員が「たいしたことではない、と終われ

る話ではない」と県に厳格な姿勢を促す場面もあった。

高浜原発4号機の原子炉停止で、関西電力への批判を県に投げかける委員たち。県議会委員会室で。



た。

桃谷好晃委員（民主・みらい）は「国民の理解には、しっかりと運転実績を積み重ねるしかない。今回は大変残念」と話した。桜本宏安全環境部長は「二つのトラブルは極めて遺憾なこと。原子炉停止は、原子力規制委員会が法令に基づ

きどう評価するかが問題。しっかりととした判断がなされるべきだ。関電は速やかに原因を究明した上で再発防止対策をし、信頼を回復するのが役割だ」と述べた。

（尾嶋隆宏）